

「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト事業 令和2年度 高知の授業づくり講座(国語)

《 第1回 教材研究会 & 第2回 授業研究会 》
高知市立青柳中学校

発行 令和2年8月
高知市教育委員会
学力向上推進室



公開授業のレポートは、
高知市教育委員会 学校
教育課のHPをご参照くだ
さい。

「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業 令和2年度高知の授業づくり講座」では、学習指導要領が目指す授業づくりを押し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指し、拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を1セットとして、年間2セット実施します。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため1セット目は校内研究として取り組むことになりました。高知市の中学校国語の拠点校である青柳中学校の第1回【授業研究会】(7月14日実施)、第2回【授業研究会】(7月17日実施)を中心に本単元の学びの様子を紹介します。

単元名 五台山夏祭りの危機を救え ～相手に伝わるように話の構成を工夫する～ 【出典】「魅力的な提案をしよう」(光村図書『国語2』)

提案1 教科等横断的な視点での単元構想の工夫



総合的な学習の時間において

地域の人たちから「来年の五台山夏祭りを盛り上げるために中学生のアイデアが欲しい。」という依頼を受けたことを基に探究的な学習を進める。

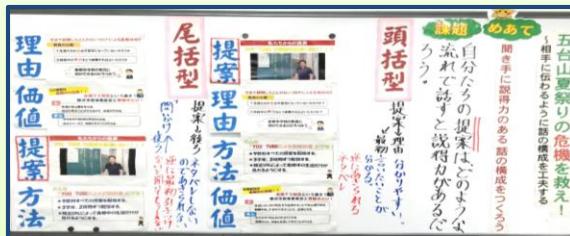
国語科において

聞き手の興味・関心を高め、説得力のある提案となるよう、適切な根拠を用いて話を組み立てたり、効果的な資料を用いて話したりすることで、聞き手を意識して話す力を身に付けさせる。

技術・家庭科(技術分野)において

提案の説得力につながるパワーポイントを作成する。

提案2 単元における資質・能力の明確化



第3時 板書①

第3時 板書②

本時(第3時)の際の板書①と振り返りの際の生徒の発言を想定した板書②

評価規準(知識・技能)

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項
イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。

評価規準(思考・判断・表現)

A 話すこと・聞くこと

イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。
ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫している。

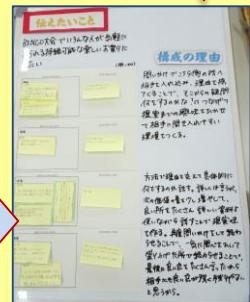
評価規準 [主体的に学習に取り組む態度]

粘り強く話の構成を工夫し、学習課題に沿って提案しようとしている。

評価方法：ワークシート、観察
グループで提案内容を書いた付箋を整理したり、付け足したりしたことを基に、話す順番、意図(効果)について話したり、ワークシートに書き込んだりしているかを確認する。
⇒個人の振り返り

グループの「伝えたいこと」を効果的に伝える「話の構成」とその構成にした「理由」を整理したホワイトボード。説得力のある話の構成を吟味する手立てとなっている。

本時(第3時)における指導の工夫



今回の授業づくりを通して、単元を通して目的・相手意識をしっかりと持たせた言語活動を行うことで、生徒の主体性を大きく高めさせることが分かった。生徒の主体性が高まると、本単元で身に付けたい資質・能力を生徒自らが獲得しようとし、課題解決に向かっていく姿が全ての生徒に見られた。社会で通用する力を付けるために、リアリティを大切に授業づくりをこれからも続けていきたい。

木村 教諭

地域とのつながりを大切にする本校で、地域の現状を教材とした授業づくりができたことはよい経験であった。今回の「話の構成」の指導として、提案内容の四つの観点(「提案」理由「方法」価値)に着目させ、構成の違うモデルを比較させることで、伝える順番によって伝わり方が変わることをつかませることができた。(板書①参照)
実践を通して、「話の構成」の指導の際には、「話す順番」と「その順番で話す効果」を生徒にしっかりと考えさせ、それが聞き手にとって納得のいく話の流れになっているかどうかを検討させることが重要であることが分かった。

市川 教諭

教材研究会 (7月14日実施：国語科 第3時)

学級：2年3組 授業者：木村大作 教諭

授業研究会 (7月17日実施：国語科 第3時)

学級：2年2組 授業者：市川才将 教諭

国語科
第4時・第5時

総合的な学習の時間
第4時

Before

個人で考えた話の構成とその意図を付箋に記したワークシート
⇒これを基にグループで共有

課題

◆個人で考えた話の構成をグループで共有する際、構成の意図の説明だけで、伝えたい提案の内容については相手に分かるように十分説明できていない。
⇒グループで共有する際に思考を深めるための手立てが必要

授業研究会に向けての改善点

①学習課題の改善

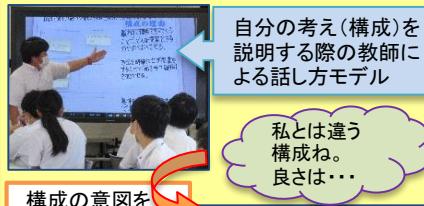
最初に今まで学習したことを使って、自分たちの提案を練り上げるにはどうしたらよいかという問いを持たせるように「課題」を修正する。

【本時】聞き手に説得力のある話の構成をつくらう

②共有の改善

・グループで共有する際のポイント(①伝えたいこと②プレゼンテーションの概要③構成の意図)を具体的に示す。⇒単元末のプレゼンテーションを意識させる話し方の提示
・話し手・聞き手の役割を全体で確認し、明確にする。(ワークシートへの具体的な記入例を提示)

After



自分の考え(構成)を説明する際の教師による話し方モデル

私とは違う構成ね。良さは...

構成の意図を意識して交流へ

ぼくが考えた構成は.....なぜそのように考えたかという...

成果

◇学習課題を修正したことで、自分たちのグループの提案で一番強調したい事柄を、どのような話の流れで話すと効果的かを主体的に考えるようになった。
◇グループ共有の際のモデルを示したことで、自分の考えた構成を実際にプレゼンテーションしているように伝えることができ、互いの考えの違いを明確に提案することができた。
◇ワークシートへの記入例を示したことで、聞き手が押さえるべきことが明確になり、共有する際のやりとりが活発になった。

課題

◆学級全体でグループの動きや考えを共有する際、グループの見取りが不十分のため、適切なグループを選んで発言させることができていない。
◆生徒の発言の焦点化が弱く、板書等での視覚化ができていない。
◆提案を効果的に伝えるためのコツの取り出しが不十分で、振り返りに生かせていない。

第4時



撮った動画を基に、グループや学級全体で改善点を検討し合う。
⇒技術・家庭科(技術分野)の第2時へ

第5時



学級代表を決める選考会

7月31日(金)、地域の夏祭り実行委員の方々や夏祭りの会場である高知市立五台山小学校の校長先生を審査員としてお招きし、学年で選ばれたグループが夏祭りの提案を行っている様子。



提案『竹を使った光のアート』の
実物提示

【この単元の学習を終えて...生徒のコメントより】
・説得力を持たせる話の構成を学習して、自分たちの提案の中で強調したいことを、話の流れの中のどこに位置付けるかによって聞き手への伝わり方が変わることが分かった。
・よりよい提案するために、友達の見聞をもらうことで客観的に自分の提案を考えることができた。自分の考えも動画などを使って伝えることで、友達に納得してもらえた。

【参観者の意見】
◇これから求められる資質・能力の育成を図る単元構想として、地域資源を活用した教科横断的な単元構想の提案がとてもよかった。また、付箋を基に共有させたことで全員参加の授業となっていた。
◇他教科との連携の際は、各教科が何を指して指導しようとしているのかを理解して進めることが大切であると改めて分かった。
◆本時の評価規準を達成した姿(B基準)として、どこまでを求めているのかが不明確であった。

【参観者の意見】
◇教材研究会を経て、子どもたちの学びを支えるための手立てが工夫され、50分間、自分たちの提案や伝えたいことを効果的に伝える構成について、子どもたちがよく思考し続ける授業となっていた。
◆全体に共有する際、各グループでまとめたホワイトボードの内容の提示の仕方や振り返りの仕方については電子黒板に提示するなどのさらなる工夫が必要である。